

日本語と韓国語における複合動詞の語彙的対照研究

徐 民 靜

0. はじめに

日本語と韓国語は文法的にも語彙的にも似ている部分が多く、文において逐語訳が可能な場合が多い。しかし、複合動詞¹となると、動詞と動詞の組み合わせが必ずしも同様の対応をしているわけではない。日本語における複合動詞の前項動詞と後項動詞との相関関係や、韓国語における複合動詞の前項動詞と後項動詞との相関関係には、類似している部分もあれば、異なる部分もある。既に先行研究として、両言語の複合動詞における類似点、相違点についての研究²があるが、日本語と韓国語における複合動詞の根本的な違いについて探ろうとしたものである。

本稿でも両言語における複合動詞の根本的な違いを探るといった点では同じだが、本稿では複合動詞の対応関係をそれぞれの言語から考察し、特に複合動詞と単一動詞³という対応関係が成立する場合の語彙的な違いについて記述していく。

¹ 本稿で言う複合動詞は、動詞の連用形に動詞が組み合わったものを言うが、動詞の連用形というのは、韓国語においては「아/어[a/eo]形」に相当する。また、韓国語では、「複合」は「Complex」、「合成」は「Compound」と解釈するのが一般的であり、本稿で言う複合動詞は、「合成動詞」に相当する。用語の混乱を避けるために、「複合動詞」に統一するが、本稿での韓国語複合動詞は韓国語では「合成動詞」と同じ意味であることを断っておく。ただし、韓国の研究者によっては、「複合動詞」と言う場合もある。なお、前項に来る動詞を「前項動詞=V₁」、後項に来る動詞を「後項動詞=V₂」と呼ぶ。

² 塚本(1997, 2009)、生越(1984)などがある。

³ 本稿では二つの動詞の組み合わせで成り立っている動詞を複合動詞とするが、それに対して一つの動詞の場合を単一動詞とする。

2. 日本語と韓国語における複合動詞の語彙的対照

ここでは日本語と韓国語における複合動詞はどのような対応関係が見られるか、日本語から見た場合と韓国語から見た場合という二つの観点から考察していく。

2.1. 日本語から見た場合

2.1.1. V_1 と V_2 が共に言語化⁴される。

- (1) 手持ちの株を銀行に売り渡した。『基』⁵

가지고 있는 주식을 은행에 팔아넘겼다.<売り-渡した>⁶

- (2) 生徒達は黒板の問題をノートに書き写した。『ケ』⁷

학생들은 칠판의 문제를 노트에 베껴썼다.<写し-書いた>

(1) の「売り渡す」は「팔아<売り>-넘기다<渡す>」、(2) の「書き写す」は「베껴<写し>-쓰다<書く>」と、韓国語でも V_1 と V_2 の対応が見られ、共に言語化されている。このように、 V_1 と V_2 が共に言語化される複合動詞は、他にも「受け入れる：받아-들이다」「凍り付く：얼어-붙다」「生き残る：살아-남다」などがある。

(2) の「書き写す」は「베껴썼다.<写し-書いた>」であり、韓国語になると語の構成順が「 $V_2 + V_1$ 」と逆に対応する。 V_1 と V_2 が逆の対応関係にあるものには、他にも「乗り換える：갈아-타다」「見回る：돌려-보다」「着替える：갈아-입다」などがある。

これらの複合動詞は、 V_1 と V_2 が両方ともに具体性のある動詞であり、その具体性が実質的な意味で使われている動詞である。つまり、 V_1 だけでも V_2 だけでも、単一動詞として成立し、実質的な意味で使われる。しかし、 V_1 と V_2 に具体性があり、実質的な意味があるからといって、 V_1 と V_2 が共

⁴ 複合動詞を対照した場合、 V_1 または V_2 が直訳に近い形で対応する場合を本稿では「言語化」と言うことにする。

⁵ 『基』は『日本語基本動詞用法辞典』から引用した用例を表す。

⁶ 日本語用例の韓国語訳は筆者によるものである。また、<>は下線部の韓国語を直訳した場合の日本語の意味である。

⁷ 『ケ』は『ケーススタディ日本語の語彙』から引用した用例を表す。

に言語化されるとは限らない。以下のような場合である。

- (3) 正面玄関まで車で乗り入れる。『大』⁸

정면 현관까지 차로 들어간다. <入る>

- (4) 山かげに消え残る雪。『大』

산그늘에 남은(녹지 않은) 눈. <残っている (溶けていない)>

(3) と (4) の「乗り入れる」「消え残る」のような複合動詞の場合、V₁ と V₂ が具体性と実質性があると言えるが、韓国語では V₁ と V₂ が共に言語化されていない。これは、次に述べる V₁ と V₂ のどちらかが言語化される場合とも関連するので、次で詳しく述べることにする。

2.1.2. V₁ と V₂ のどちらかが言語化される。

- (5) 給料から税金を差し引くと手取り収入になる。『基』

급료에서 세금을 빼면 실수입이 된다. <引く>

- (6) 割れ物を取り扱う時には気を使う。『基』

깨지는 물건을 다룰 때에는 신경이 쓰인다. <扱う>

- (7) 優子は町へ出たついでに本屋に立ち寄る。『基』

유우코는 시내로 나간 김에 서점에 들렀다. <寄った>

(5) の「差し引く」は「빼다<引く>」、(6) の「取り扱う」は「다루다<扱う>」、(7) の「立ち寄る」は「들르다<寄る>」のように、日本語は複合動詞であるが、韓国語は単一動詞である。「差し引く、取り扱う、立ち寄る」の韓国語は、V₁ は言語化されず、V₂ だけが言語化されている。実質的な意味がない V₁、「差し引く」の「差す」、「取り扱う」の「取る」、「立ち寄る」の「立つ」を含む場合は、韓国語では単一動詞になる。V₁ には実質的な意味を持たない接頭語のような働きがあるため、韓国語では言語化されないと言えるが、日本語では確かに「差し引く」と「引く」、「取り扱う」と「扱う」、「立ち寄る」と「寄る」には語彙的に違いがある。この違いは韓国語で

⁸ 『大』は『大辞林 第二版』から引用した例であることを示す。

どう現れるのかについては、本稿の趣旨から少し離れてしまうので、今後の課題とする。

- (8) 子供の進路のことについて妻ともっと話し合うつもりだ。『基』
아이 진로에 관해 아내와 더 얘기할 생각이다.<話-する=話す>
- (9) 僕は一晩でその小説を読み上げた。『基』
나는 하룻밤에 그 소설을 다 읽었다.<全部-読んだ>
- (10) 慌ててご飯を飲み込んでしまった。『基』
당황해서 밥을 삼켜 버렸다.<飲んで>

V₁が具体的で実質的な意味がない場合、V₂だけが言語化される場合を見てみたが、(8)～(10)のように、V₁だけが言語化される場合もある。

(8)の「話し合う」の「얘기하다<話す>」は、V₁だけが言語化されている。V₁だけが単一動詞として対応を見せるのは、V₂の「合う」には「互いに～する」といった機能的な意味があり、この機能が韓国語とは対応しないためであると考えられる。

(9)の「読み上げる」は「다 읽다<全部-読む>」のように、具体的な意味を担うV₁が言語化されている。言語化されていないV₂の「上げる」は、「上の方へ移動させる」という具体的な意味は薄れ、「ある行為を終えた」といった拡張された意味で使われている。V₂が本来の具体的、実質的な意味ではなく、拡張された意味で使われている場合、韓国語とは上手く対応しないと言える。

(10)の「飲み込む」は「삼키다<飲む>」で、V₁だけが言語化されていると言えるが、語彙的に(8)と(9)とは異なる。「飲む」と「飲み込む」は、飲食物を喉に送り込むといった共通した意味があるが、「飲む」と「飲み込む」には行為としての違いがある。

韓国語では飲食物（主に液体）を喉に送り込む行為を表すのは「마시다<飲む>」であり、飲食物を噛まずに喉に送り込む行為を表すのは「삼키다<飲み込む>」である。そのため、「飲み込む」に対応する韓国語は複合動詞として現れないのである。

(3) 正面玄関まで車で乗り入れる。『大』

정면 현관까지 차로 들어간다.<入る>

(4) 山かげに消え残る雪。『大』

산그늘에 남은(녹지 않은) 눈.<残っている(溶けていない)>

(11) 弘はクラブの学生たちに先輩の言葉を言い伝えた。『基』

히로시는 클럽 학생들에게 선배의 말을 전했다.<伝えた>

2.1.1. で少し触れたV₁が具体的で実質的な意味がある場合でも韓国語では言語化されず、単一動詞である場合について述べる。先ほどの(3)と(4)がこれに相当する。(3)の「乗り入れる」は「(탄 채로)들어가다<(乗ったまま)入る>」、(4)の「消え残る」は「남다<残る>」、(11)の「言い伝える」は「전하다<伝える>」であり、韓国語は単一動詞である。これらの複合動詞は、V₁とV₂のそれぞれが具体的で実質的な意味があるものの、V₂が複合動詞全体の意味を担い、V₁はV₂を修飾していると言える。

韓国語の場合、V₁が言語化されなくても意味が伝わるのは文全体の支えがあるからだと考えられる。つまり、(3)の「乗り入れる」は「車で」が、(4)「消え残る」は「山かげに～雪」が、(11)「言い伝える」は「後輩たちに～言葉を」が文に現れているからである。仮に、このような要素が明記されていないならば、単一動詞だけでは意味が十分に伝えられなくなる。

2.1.3. V₁とV₂のどちらも言語化されない。

(12) 額縁を変えたら、絵が一段と引き立った。『大』

액자를 바꿨더니 그림이 한층 돌보였다<高々と-見えた>

(13) 下宿が見つかって、やっとそこに落ち着いた。『基』

하숙집이 구해져서 겨우 거기에 자리잡았다.<場所-取った>

(14) 洋子は勉強に、スポーツに毎日張り切っている。『基』

요오코는 공부에 운동에 매일 의욕이 넘친다.<意欲があふれる>

(12)の「引き立つ」は、「引く」と「立つ」を韓国語に対応させると、全体の意味の想像が付かない。「引き立つ」に具体性がなく、「引く」と「立

つ」の具体的な動きが「引き立つ」に直接現れていないからである。「引き立つ」を韓国語で言うと、「돋보이다<高々と-見える>」が最も近い意味になる。「돋보이다<高々と-見える>」は、「돋<高々と>+보이다<見える>」という「副詞+動詞」の構造を取っている。

一方、語の構造的な違いはあるものの、「돋보이다<高々と-見える>」は、目に見える形の視覚的な意味から、「目立って現れる」と言った意味への拡張が日本語と同じように見られる。「味が引き立つ」や「演技が引き立つ」の場合も「맛이 돋보인다」や「연기가 돋보인다」と同じように対応している。

(13)の「落ち着く」、(14)の「張り切る」は、(12)の「引き立つ」同様、具体性がなく、V₁「落ちる」、「張る」とV₂「着く」、「切る」には、本来の具体的な動きを表す意味が薄れて全体の意味が想像しにくくなっている。このような場合、韓国語になると、一つの動詞をもって表現することはできず、(13)の「落ち着いた」なら、「자리잡았다<場所を取った>」、(14)の「張り切る」なら、「의욕이 넘친다<意欲があふれる>」といった表現に変わる。韓国語の場合、一つの動詞としての表現がないため、例えば、「心が落ち着く:마음이 가라앉다<沈む>」や「落ち着いた雰囲気:차분한<落ち着いた> 분위기」のように、日本語では同じ「落ち着く」でも、韓国語は文脈によって表現が変わってくる。このように文脈によって韓国語の表現が変わるのは、「落ち着く」が非常に多義的であるからである。

以上のように、V₁とV₂のどちらも言語化されない場合は、「V₁+V₂」全体の意味に具体性がない場合であった。しかし、その中には、「引き立つ<돋보이다>」のように、どの文脈でも日本語と同じく、対応関係を見せる場合と、「落ち着く<가라앉다, 자리잡다, 차분하다>」のように、文脈によって表現が変わってくる場合があった。

2.2. 韓国語から見た場合

2.2.1. V₁とV₂が共に言語化される。

⁹ 『표준국어대사전<標準國語大辭典>』によると、「돋보이다」の「돋」は副詞「도」縮約形であると明記されている。

(15) 수도 꼭지가 얼어붙다. <凍り-付く> 『標国¹⁰』

<水道の蛇口が凍り付く>

(16) 창에 숨어 있는 범인을 끌어내다. <引き-出す> 『朝鮮¹¹』

<倉に隠れている犯人を引っ張り出す。>

(17) 두눈에서는 두줄기의 눈물이 주르르 흘러내렸다. <流れ-降った>

<両目からは二筋の涙がぼろり流れ落ちた。>

(15) の「얼어붙다」は、V₁が「얼다<凍る>」、V₂「붙다<付く>」で V₁とV₂が日本語に対応し、言語化されている。「凍る」と「付く」という現象は、それぞれ具体的で実質的な意味があるため、両言語間での対応がしやすい。

(16) の「끌어내다」のV₁「끌다」には「引く、引きずる、引っ張る」という意味が含まれているので、対応する日本語は、「引き出す、引きずり出す、引っ張り出す」といった対応が可能である。「끌다<引く>」の具体的な動作を表す表現が、日本語の場合、複合動詞の形で動詞の中に組み込まれているのだが、韓国語の場合、敢えて言うならば「引きずり出す」は「질질 끌어내다 <ずるずる引き出す>」、「引っ張り出す」は「당겨서 끌어내다<引っ張って引き出す>」といった表現になり、やはり一つの動詞にはならない。

(17) の「흘러내렸다<流れ-降った>」に相当する日本語は「流れ落ちる」だが、「내리다<降る>」と「落ちる」は「意志を持たない何かが上から下の方へ移動する」といった意味で共通点がある。『日本国語大辞典 第二版¹²』の「落ちる」の説明を見ても「雨、雪などが降る」という記述があり、「흘러내리다」と「流れ落ちる」のV₂「내리다」と「落ちる」は、同じ意味合いがあると考えられるので、V₁とV₂が共に言語化されていると言える。

¹⁰ 『標準国語大辞典』は1999年、韓国の国立国語院によって出版された。以後、2008年に改訂版が出たが、出版はされていない。改訂版は、電子化され、ウェブサイトで一般公開されている。語の検索には、電子化された改訂版を利用した。
<http://stdweb2.korean.go.kr/main.jsp> なお、以後『標準国語大辞典』は『標国』とする。

¹¹ 『朝鮮』は『朝鮮語辞典』の用例を表す。

¹² 見出し語の検索には電子化されたものを利用した。

<http://www.japanknowledge.com/> なお、以後『日本国語大辞典』は『日国』とする。

2.2.2. V₁とV₂のどちらかが言語化される。

(18) 아이는 그의 옷소매를 잡아당겼다. <掴み-引く>

<子供は彼の袖を引っ張った。>

(19) 아우는 장화(신발)를 신기 위해서 밤새껏 돌아다닌다.¹³

<回り-通う>

<弟は長靴(靴)を履くために一晩中歩き回る。>

(18)の「잡아당기다」は、V₁が「잡다<掴む>」であり、V₂が「당기다<引く>」である。V₁の「잡다<掴む>」は引くときの手の状態を表し、V₂の「당기다<引く>」は手で掴んだ状態で行う動作を表すと言える。「잡아당기다」は日本語で言うと「引っ張る」に相当するが、「잡아당기다」のV₁とV₂のうち、V₂が言語化されている。この場合、日本語は「引く<당기다>」がV₁になっている。動作のメインを担う「引く」が日本語の場合はV₁である。

(19)の「돌아다니다」はV₁が「돌다<回る>」であり、V₂が「다니다<通う>」である。V₁の「돌다<回る>」は回転するという意味よりはいろんな所へ足を運ぶという意味であるが、V₂「다니다<通う>」は頻繁に行き来するという意味で、直接移動に関わると言える。「돌아다니다」に相当する日本語「歩き回る」は、V₁「歩く」が回る時の具体的な動作を表し、V₂「回る」はいろんな場所へ足を運ぶという意味である。「돌아다니다」のV₁「돌다<回る>」が「歩き回る」のV₂「回る」として言語化されているが、意味的には「다니다<通う>」と「回る」が対応していると言える。

2.2.2.1. V₂が方向性を伴う複合動詞

a. 「-가다<行く>」

돌아가다<帰る>、찾아가다<尋ねる>、내려가다<下りる>、
건너가다<渡る>、지나가다<通り過ぎる>、들어가다<入る>、

¹³ [이여형, 侏문학사상, 2003]

가져가다<持っていく>、걸어가다<歩いていく>、흘러가다<流れていく>など。

b. 「-오다<来る>」

돌아오다<帰ってくる>、찾아오다<尋ねてくる>、내려오다<下りてくる>、건너오다<渡ってくる>、지나오다<通り過ぎてくる>、들어오다<入ってくる>、가져오다<持ってくる>、걸어오다<歩いてくる>、흘러오다<流れてくる>など。

c. 「-주다<あげる／くれる>」

놔주다<放す／放してくれる>、바래다주다<見送る／見送ってくれる>、돌려주다<返す／返してくれる>、빌려주다<貸す／貸してくれる>、봐주다<世話をする／世話をしてくれる>、도와주다<助ける／助けてくれる>、물려주다<譲る／譲ってくれる>など。

韓国語の複合動詞には、V₂に方向性が伴うものがある。例えば、V₂が「-가다<行く>」、「-오다<来る>」、「-주다<あげる／くれる>」の場合である。

V₂が「-가다<行く>」または「-오다<来る>」の場合、V₁は移動動詞の場合が多い。移動には、起点、経路、着点に伴うが、移動の経路だけを表す着点を定めない表現、例えば、「橋を渡る」とか、「道を歩く」のような移動以外、移動には自分を基準とした方向が必要となる。そのため、「-가다<行く>」または「-오다<来る>」は移動動詞と結合しやすいのである。

しかし、V₂が「-가다<行く>」または「-오다<来る>」である、韓国語複合動詞に日本語を対応させると、特に、V₂が「-가다<行く>」の場合、日本語では方向性を表す表現が言語化されない。自分が起点になって、移動する場合は、「-行く」は言語化せず、自分が着点となった場合は、「-来る」を言語化するところが韓国語とは異なる点である。また、V₂に方向が伴われても日本語の場合、「-て」が介入するため、複合動詞ではなくなる。

次に、V₂が「-주다<あげる／くれる>」の場合だが、本稿では授受表現も方向が伴われるものと見て、物や利益などの移動として広く捉えている。物や利益などの移動には、自分を起点として物や利益が動いていく場合と、

自分が着点となって動いてくる場合がある。韓国語の場合は、先に述べたV₂が「-가다<行く>」または「-오다<来る>」の場合とは違って、物や利益の移動の場合、V₂は「-주다<あげる／くれる>」が用いられる。つまり、授受表現では自分からいくものなのか、相手からくるものなのかの「あげる／くれる」の区別はしないわけである。

V₂が「-주다<あげる／くれる>」の複合動詞に日本語を対応させると、「-가다<行く>」または「-오다<来る>」が付く場合の日本語と同じように、「-주다」の移動方向が「あげる」、つまり、自分が起点で物や利益が移動する場合、「あげる」は用いない。しかし、自分が着点となって物や利益が移動する場合は「くれる」が用いられる。

このように、人の移動や物、利益の移動という観点から日本語と韓国語の複合動詞を対応させてみると、韓国語の場合は、自分が起点になる場合でも、自分が着点になる場合でも、その方向を表す意味のV₂が付随されるが、日本語の場合は、自分が起点になった場合は、特に方向を表す表現を用いないと言える。

2.2.3. V₁とV₂のどちらも言語化されない。

- (20) 수사관이 건너झ어서 범인을 추구했다. <渡り-つく> 『朝鮮』
 <捜査官がかまをかけて犯人を追及した。>
- (21) 그는 처와 갈라섰다. <裂き-立つ> 『朝鮮』
 <彼は妻と別れた。>
- (22) 그는 나에게 자기가 한 일이라고 털어놓았다. <はたき-おく>
 <彼は私に自分がやったことだと打ち明けた。> 『標国』
- (23) 네가 잘하건 못하건 나는 평생 너를 따라다니며 피아노를 가르칠 거란다.¹⁴ <追って-通う>
 <あなたが上手でも下手でも私は一生あなたに付きまとってピアノを教えるつもりなのよ。>

¹⁴ [좋은생각, 좋은생각, 1999]

(20) の「건너짚다<かまをかける>」は、V₁が「건너다<渡る>」であり、V₂が「짚다<(杖などを)つく>」である。(20)の「건너짚다<かまをかける>」はV₁とV₂のそれぞれの意味が分かっている、全体の意味、つまり「かまをかける」といった意味に導くのは容易ではない。それ故、日本語の複合動詞としての対応は見られなかった。

(21)と(22)の場合も同様である。(21)の「갈라서다<別れる>」は、V₁が「가르다<裂く>」で、V₂が「서다<立つ>」であり、(22)の「떨어놓다<打ち明ける>」は、V₁が「떨다<はたく>」で、V₂が「놓다<置く>」である。(20)の「건너짚다<かまをかける>」と同様にV₁とV₂から全体の意味を推測するのは難しい。

(21)「갈라서다<別れる>」のV₁「가르다<裂く>」とV₂「서다<立つ>」は、「一つだったものを二つに裂いて、それぞれの場所に立つ」ことで「別れる(離婚する)」ことを意味する。(22)「떨어놓다<打ち明ける>」のV₁「떨다<はたく>」とV₂「놓다<置く>」は、「中にあるものすべてをはたいて出して置く(出して見せる)」ことを意味する。

(23)の「따라다니다」はV₁が「따르다<追う>」、V₂が「다니다<通う>」であるが、日本語で言うと「付きまとう」に相当する。つまり、V₁が「付く」、V₂が「まとう」で、この場合V₁とV₂のどちらも対応していない。「따라다니다」のV₂「다니다<通う>」は移動の様子を表しているが、「付きまとう」のV₂「まとう」は「付く」をより強調する意味で付いている状態を表している点が異なると言える。

このように、V₁とV₂が具体的な動きを表しているにも関わらず、韓国語と日本語のV₁とV₂の対応が見られないのは、韓国語の中での意味の拡張と日本語での意味の拡張とは必ずしも一致しているとは限らないからである。具体的なことばを用いて実質的でない動きを表すと言った点では両言語で共通していると思うが、その意味の拡張には違いが見られた。

3. 複合動詞の語彙的対照のまとめ

日本語と韓国語の両方の観点から考察した結果をまとめると、まずV₁とV₂のどちらも言語化される場合は、日本語も韓国語も具体的で実質的な意

味がある場合が多かったが、ただし、具体的で実質的な意味があっても、韓国語になると、文脈の支えによって単一動詞になる場合があった。また、V₁とV₂に対応が見られたが、語構成順が交差する場合もあった。

V₁とV₂のどちらかが言語化される場合は、V₁またはV₂に実質的な意味を持たない場合であったが、特にV₁が接頭語のような働きがある場合やV₂に機能的な意味がある場合、日本語と韓国語とでは上手く対応しなかった。

V₁とV₂のどちらも言語化されない場合は、V₁とV₂それぞれには具体的で実質的な意味があるものの、V₁とV₂が結合した複合動詞全体の意味はV₁とV₂の意味からは推測が困難な場合であった。

4. おわりに

本稿は日本語と韓国語における複合動詞を語彙的な観点から対照を行ったが、日本語と韓国語の両方からの観点で考察を行った。それぞれの言語の観点からの考察は片方の観点だけでは見つけられなかった点も見つかり、ある程度の成果は得られたが、もっと詳細に調べる必要があるものもたくさん出てきた。これからさらに研究を進めていき、一般化できるような成果が出せることを、今後の課題としたい。

<用例引用、及び検索>

小泉保等編 (1989) 『日本語基本用法辞典』、大修館書店

油谷幸利・門脇誠一・松尾勇・高島淑郎 (編) (1998) 『朝鮮語辞典』、小学館

森田良行 (編) (1989) 『ケーススタディ日本語の語彙』、おうふう

국립국어연구원 정보마당 용례검색

http://www.korean.go.kr/08_new/index.jsp

読売新聞 YOMIURI ONLINE <http://www.yomiuri.co.jp/index.htm>

『大辞林 第二版』 <http://dictionary.goo.ne.jp/jn/>

『日本国語大辞典』 <http://www.japanknowledge.com/>

『표준국어대사전<標準国語大辞典>』

http://www.korean.go.kr/09_new/index.jsp

<参考文献>

- 石井正彦 (1983) 「現代複合動詞の構造分析における一観点」『日本語学』2:8
—— (1987) 「漢語サ変動詞と複合動詞」『日本語学』6:2
生越直樹 (1984) 「日本語複合動詞後項と朝鮮語副詞・副詞的な語句との関係-日本語副詞指導の問題点-」『日本語教育』52号、日本語教育学会
影山太郎 (1993) 『文法と語形成』、ひつじ書房
斎藤倫明 (1989) 「語構成Ⅱ」森田良行 (編) 『ケーススタディ日本語の語彙』、おうふう
—— (1992) 『現代日本語の語構成論的研究』、ひつじ書房
徐 民靜 (2003) 「移動動詞『出る』の日韓対照研究」『国文学論叢』美山靖教授退職記念号、龍谷大学国文学会
—— (2006) 「補助動詞『いく:가다』の意味の拡張による文法化-日韓両言語の対照の観点から-」『日本言語文化研究』第九号、日本言語文化研究会
—— (2007) 「補助動詞『くる:오다』の日韓両言語の対照研究」『国文学論叢』糸井通浩教授退職記念号、龍谷大学国文学会
塚本秀樹 (1997) 「語彙的な語形成と統語的な語形成-日本語と朝鮮語の対照研究-」『日本語と外国語との対照研究Ⅳ 日本語と朝鮮語 下巻 研究論文集』国立国語研究所
—— (2009) 「日本語と朝鮮語における複合動詞再考-対照言語学からのアプローチ」『朝鮮半島のことばと社会-油谷幸利先生還暦記念論文集』油谷幸利先生還暦記念論文集刊行委員会 [編]、明石書店
寺村秀夫 (1984) 『日本語のシンタクスと意味Ⅱ』、くろしお出版
長嶋善郎 (1976) 「複合動詞の構造」鈴木孝夫 (編) 『日本語講座第4巻:日本語の語彙と表現』、大修館書店
姫野昌子 (1975) 「複合動詞・『~つく』と『~つける』」『日本語学校論集』2、東京外国語大学付属日本語学校
—— (1982) 「対称関係を表す複合動詞-『~あう』と『~あわせる』をめぐって-」『日本語学論集』9、東京外国語大学付属日本語学校
森田良行 (1978) 「日本語の複合動詞について」『講座日本語教育』第14分

冊、早稲田大学語学教育研究所

—— (1990) 『日本語学と日本語教育』、凡人社

Kay Won Lee (1998) 『Korean Compound Verbs for Foreign Speakers』、
Kyung-In Publishing Co.

(龍谷大学大学院研究生)